

初等中等教育分科会 (小中高校の放射線教育支援検討分科会) 活動報告

第1回原子力人材育成ネットワーク報告会

平成23年12月20日

(社) 日本原子力産業協会 木藤啓子

報告内容

1. 初等中等教育支援の課題
2. 分科会の目的と進め方
3. 教育現場の状況
4. 当面の取組み



1. 初等中等教育支援の課題

- ① **放射線**の知識に係る対話の強化
- ② 工学系への志向性を高めるための初等中等教育支援の取組みの強化
- ③ 原子力の正確な知識の教育、伝達

2-1. 分科会検討の進め方

- 主査 工藤和彦先生（日本原子力学会）
メンバー 電力会社、メーカー、研究機関、
行政機関
事務局 原産協会
- 分科会 11/10（第1回）、12/15（第2回）
年度内に計4回開催予定

教育関係者、既存プログラムと連携

2-2. 分科会の目的

- ① 放射線・原子力の基礎がわかりやすく正確に教えられるよう、既存の支援プログラムを補完する具体的な取組みを提案する。
- ② 放射線・原子力教育に係る既存の支援プログラムが見えやすく、利用しやすくなるよう工夫する。

3 - 1 . H20年学習指導要領の改訂

⇒授業時間数の増加、指導内容の充実

★中学3年理科: 「放射線の性質と利用」

(12月、1~2時限)

☆高校物理基礎 : 放射線・原子力の利用と安全

☆小学6年理科 : 電気の利用

3-2. 教育現場の求めるもの

- **基礎**的な知識、認識（×有用性、安全性）
- 教員研修会
- 学習指導講習会
- 施設見学
- 講師派遣／出前授業
- 教材、実験材料（はかるくん、霧箱、線源）
- 中学「**エネルギー—資源**（6時限）」の一部

等々

4. 分科会の当面の取組み

① 教育現場の状況理解

: 教育関係者と連携

② 教育現場のニーズに応える支援プログラムの検討

: 教員研修、教育機会の拡充、教材等提案

③ 既存の支援プログラムの有機的連携

: 情報ポータル

実務段階人材育成分科会 活動報告

第1回原子力人材育成ネットワーク報告会

平成23年12月20日

(社)日本原子力産業協会 木藤啓子

報告内容

1. 実務人材育成の課題
2. 分科会の目的と進め方
3. 当面の検討課題
4. 参考：技術者・研究者数

1. 実務人材育成の課題

- ① 原子力安全・防災、危機管理、放射線など専門家の確保
- ② 現場技術者・技能者の確保
- ③ 原子力技術継承の仕組み
- ④ 若者の原子力産業への志向性向上
- ⑤ 原子力人材育成の体系化と可視化

2-1. 分科会の進め方

- 主査 中川敦之 四国電力
原子力保安研修所長
- メンバー 電力会社、メーカー、研究機関、
行政機関
- 事務局 原産協会
- 分科会 11/10(第1回)、12/16(第2回)
年度内に計4回開催予定
- ◎各企業・機関に共通する教育訓練課題に
ついて連携

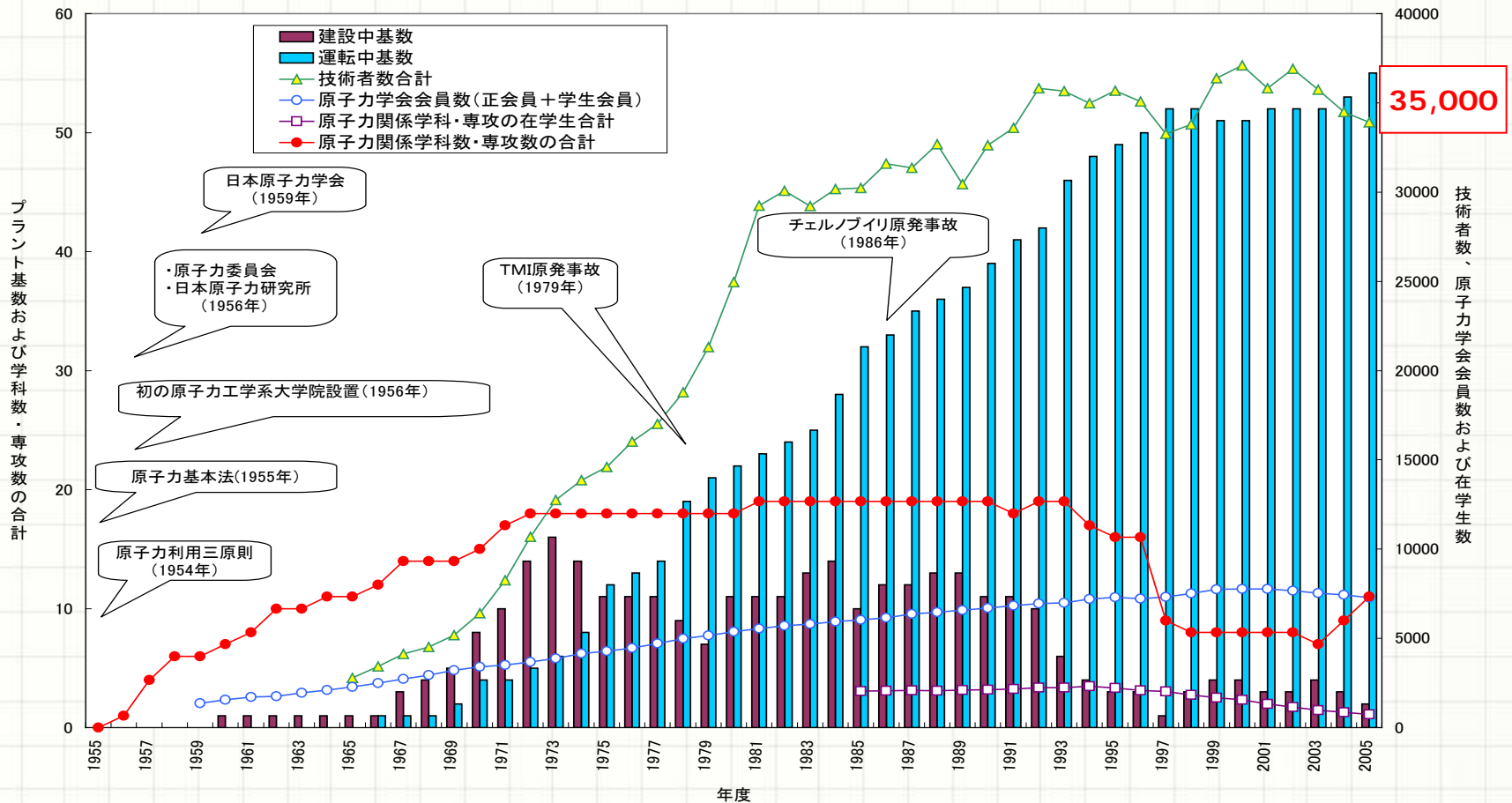
2-2. 分科会の目的

- ① **原子力安全確保**のために必要な技術の維持・向上を図り、必要な人材を計画的に育成する。
- ② **福島事故の経験**を踏まえ人材育成に反映し、共有する。

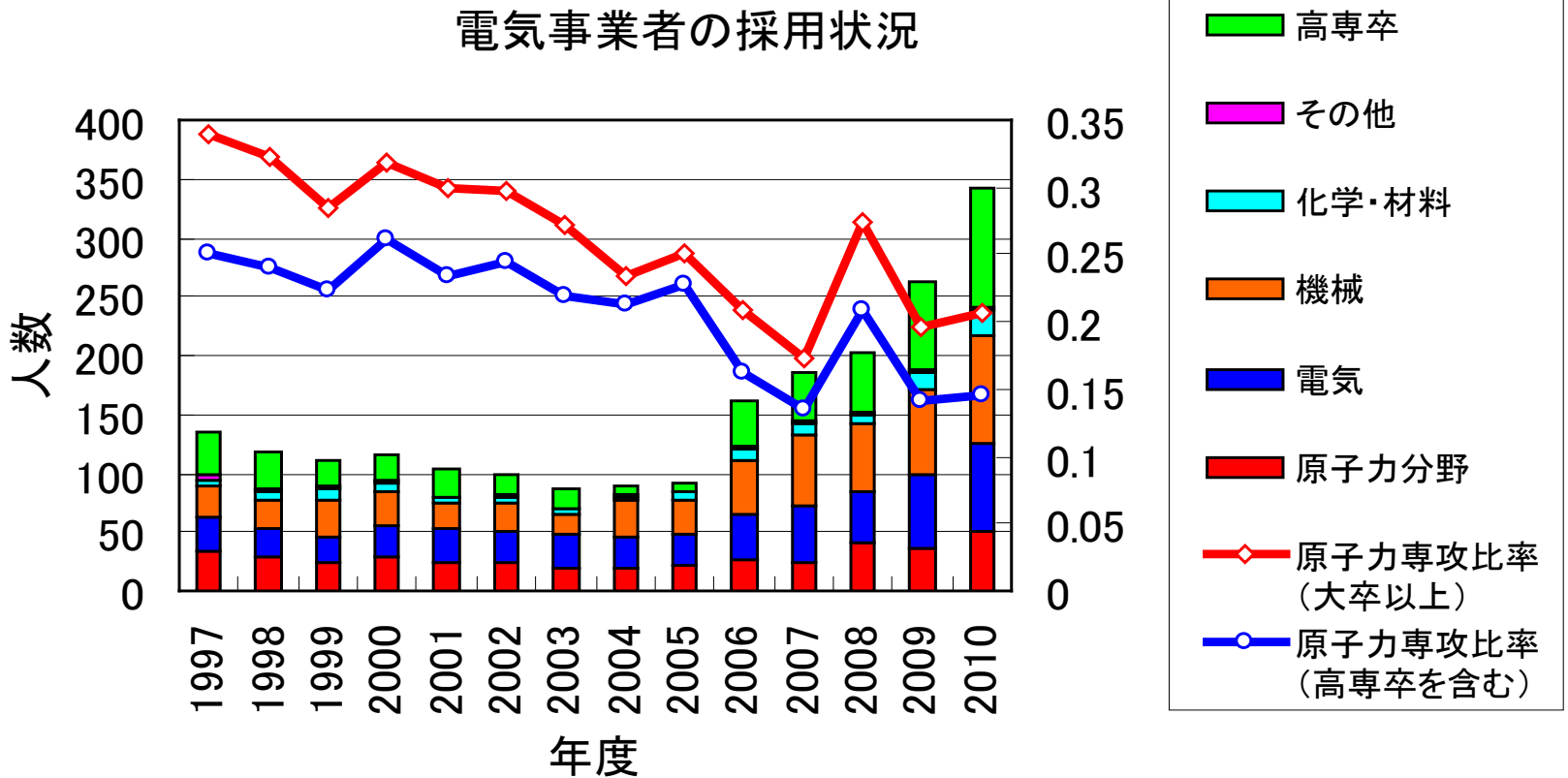
3. 分科会の当面の検討課題

- ① コア技術の整理。それらに係る教育・訓練情報や良好事例の共有。
- ② 防災対策、危機管理、放射線管理、アクセシビリティマネジメント、**安全文化**の醸成等の強化策の検討と可視化。
- ③ 共通OFF-JTプログラムの検討。

4-1. 原子力技術者・研究者数



4-2. 電気事業者の新規採用数



4-3. メーカー（6社）の新規採用数

メーカー（6社）の採用状況

